



第1期認証評価の効果と課題

高等教育質保証学会 第4回大会
2014年8月24日（日）

公益財団法人 大学基準協会
大学評価・研究部 企画・調査研究系
栗林 泉
i_kuribayashi@juaa.or.jp

本日の説明



1. 第1期大学評価（'04～'10）の検証
 - 大学評価結果の検証
 - アンケート調査結果の検証
 - 第1期大学評価における効果と課題
2. 大学評価の現在と今後の方向性（補足）
 - 第2期大学評価（'11～'07）の現状
 - 第3期大学評価（'18～'24）の方向性

はじめに



■ JUAの大学評価の目的

- ・ 大学の教育・研究活動等の質を社会に対し保障すること（質の保証）
- ・ 自己点検・評価の推進、評価結果の提示、その後のアフターケアを通じた大学への継続的な支援（改善支援）



- ・ 大学は、認証評価制度をどのように捉えたのか
- ・ 評価結果は、大学にどのような影響を与えたのか

■ 認証評価機関としての適切性の検証の必要性

JUAは、目的に合う評価を実施することができたのか

3

大学評価の有効性に関する調査の実施



■ 調査の目的

- ・ JUAの大学評価は、目的（大学の質保証、改善支援）に合うものであったのかを明らかにする。
- ・ 大学の質的向上に資する自己点検・評価、内部質保証等の実行性を更に高めるための方策を探り、第2期の大学評価システムの運用に反映させる。

大学評価の有効性に関する調査の概要	
対象	第1期（'04～'10）に大学評価を受けた301大学
実施年	2011年
方法	アンケート調査（回収率 78.7%）
	訪問調査（9大学） 評価結果分析（延べ 324大学）

『「大学評価（認証評価）の有効性に関する調査」報告書』（2012年3月）として刊行
<http://www.juaa.or.jp/publication/data/index.html>

4

第1期における大学評価の概要



- 第1期：2004～2010年度

- 申請大学：324（延べ数）

設置形態	国立	公立	私立	計
大学数	1	41	282	324

- 評価結果

結果	適合	不適合	保留	計
大学数	302	1	21	324

- 再評価結果後※

結果	適合	不適合	計
大学数	318	6	324

- ※ 保留となった21大学は、3年以内に実施される再評価の結果、16大学が適合、5大学が不適合と判定されている。

5

評価結果 15の基準項目別にみる各指摘の割合



- 大学評価結果において、長所、助言、勧告の指摘が多かった基準項目（上位5つ）

	長所	助言	勧告
1	教育内容・方法 (34.9%)	教育内容・方法 (42.3%)	学生の受け入れ (38.2%)
2	社会貢献 (23.0%)	学生の受け入れ (13.6%)	財務 (28.2%)
3	情報公開・説明責任 (9.4%)	教員組織 (11.5%)	教員組織 (10.3%)
4	学生生活 (7.6%)	研究環境 (8.1%)	情報公開・説明責任 (6.6%)
5	施設・設備 (7.0%)	施設・設備 (5.2%)	教育内容・方法 (4.4%)

6

大学評価結果 長所にみる大学の状況



長所

1大学
平均5.7件

- 制度・システムが機能している取組み
- 改善の成果が見え、他大学の模範となる取組み

指摘内容

「教育内容・方法」 (34.9%)

- ・ 導入教育から専門教育への体系性に配慮した課程編制がなされている
- ・ 大学の目的等に沿った特色ある科目を配置している
- ・ 授業改善に関する取組みが充実している
- ・ 履修指導体制が充実し、機能している
- ・ 教育の国際性に配慮した取組みが行われている



「社会貢献」 (23.0%)

- ・ 教育・研究成果等が積極的に地域社会に還元されている
- ・ 産官学連携プロジェクト等が活発に実施されている



7

大学評価結果 助言にみる大学の状況



助言

1大学
平均12.7件

- 大学としての最低要件は満たしているが、理念・目的・教育目標の達成に向けた、一層の改善・改革の努力を促すために提示するもの

指摘内容

「教育内容・方法」 (42.3%)

- ・ 教養教育に関する科目が少ない
- ・ 導入教育が充実していない
- ・ シラバスの内容に不備や精粗がある
- ・ FDに関する取組みが不十分である
- ・ 年間履修登録単位数の上限が設定されていない、又は上限が多い



「学生の受け入れ」 (13.6%)

- ・ 学部において、過去5年間における定員比率が超過している
- ・ 特定の入試（推薦入学等）における説明責任を果たしていない



8

大学評価結果 勧告にみる大学の状況



勧告

1大学
平均0.8件

- 法令違反など大学としての最低要件を満たし得ていない、または、改善・改革への取組みが不十分である事項に対し、大学に義務として改善を求めるもの

指摘内容

「学生の受け入れ」 (38.2%)

- ・過去5年間における定員比率が非常に高い
- ・過去5年間における定員比率が非常に低い



「財務」 (28.2%)

- ・財務状況が悪化し、大学運営に深刻な影響を及ぼしている
- ・私立学校法に則した監事監査業務に不備がある



「教員組織」 (10.3%)

- ・法令上必要とされる専任教員数が不足している



9

アンケート回答からみた 評価をととした大学の取り組み状況

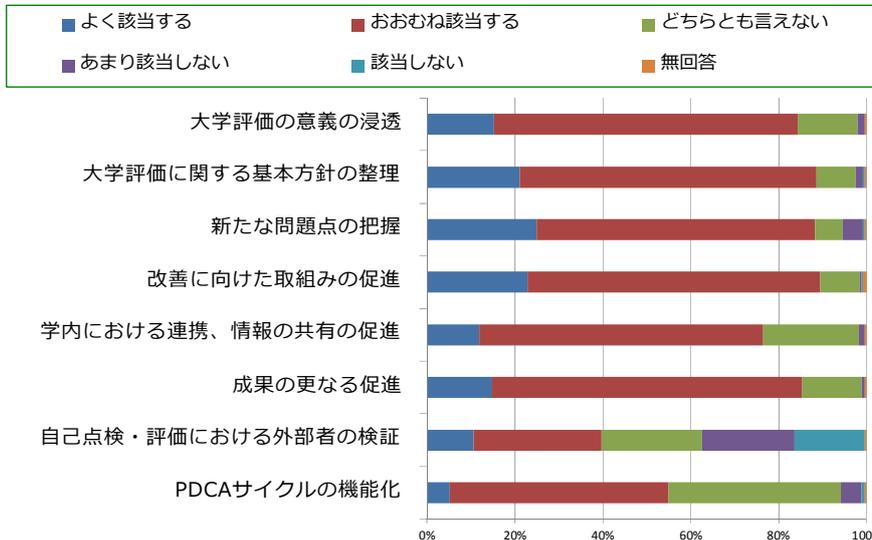


- アンケートでは、大学評価をととした15の基準項目ごとの取り組み状況をうかがった。
- そのうち、「自己点検・評価活動によって、改善に向けて取り組んでいる」「評価結果に指摘されたことによって、改善に取り組んでいる」と回答した基準項目（上位5つ）。

自己点検・評価活動によって、改善に向けて取り組んでいる	点検・評価	48.1%
	研究環境	47.3%
	事務組織	44.3%
	情報公開・説明責任	43.5%
	教育研究組織	41.4%
評価結果で指摘されたことによって、改善に向けて取り組んでいる	学生の受け入れ	30.4%
	教育内容・方法（大学院）	24.9%
	教員組織	23.6%
	教育内容・方法（学部）	21.9%
	教育内容・方法（大学院の学位授与）	21.9%

10

アンケート回答からみた 評価を受けたことによる全学的な影響



11

第1期大学評価の効果



効果

- 大学評価結果とそれに対応するアンケート結果から
 - 大学評価（大学の実施する自己点検・評価活動、大学評価結果の提示等）をとおして、大学の質の改善、向上につながった。
- アンケート結果から
 - 自己点検・評価をとおして、目標の明確化、自己点検・評価体制の整備等、大学の取組みの促進につながった。
 - 自己点検・評価活動および大学評価（認証評価）への基本的理解、意義を深めることができた。
 - その他、アンケートの記述回答より、学内における自己点検・評価、PDCAサイクルを循環させる人材養成につながったという意見も聞かれた。



概ね、第1期大学評価において、大学評価の目的を達成する評価を実施することができた

12

第1期大学評価の課題



課 題

- 大学評価結果から
 - 助言、勧告における指摘は数値基準によるものも多く、また、インプット、プロセスに関する評価の視点が多く設定されていた。より、アウトカムに着目した評価への対応が課題となった。
- アンケート結果から
 - 評価に関わる基本的な意義は浸透したが、内部質保証システムについては、十分な理解を得られていない。
 - 内部質保証システムの構築とその機能化には課題を残した。
 - 評価システムについても、内部質保証システムを適切に評価できるものとは言い難いことが明らかになった。
- その他
 - 大学側及び評価者側の作業負担軽減への対応が求められた。

13

第2期大学評価の現状



- 第2期大学評価の特長（2011年度～）
 1. 内部質保証システムの有効性に着目した評価
 - 内部質保証システム（大学の質を自らが保証するための恒常的・継続的な大学運営システム）が構築され、有効に機能しているかを評価する。
 2. 大学の自己改善機能を重視した評価
 - 学内で取り組まれている自己点検・評価の結果、問題点等の把握にとどまらず、学内の改善・改革に結びついているかを評価する。
 3. 理念・目的、教育目標の達成度を重視した評価
 - 法令要件の遵守等を評価した上で、大学が掲げる目標に向けた取り組み状況とその達成状況を評価する。

14

第2期大学評価の現状



第2期における「内部質保証」に関する取組み

(2011～2013年の評価結果から)

- 内部質保証システムが構築され、それが有効に機能している大学が増加している。
 - ・ 学部・学科、研究科、各部局で自己点検・評価を行い、明らかになった課題および発展計画を全学で共有し、それらに対応する組織を構築して、大学の改善・改革を着実に実行している。
 - ・ 大学で実施する自己点検・評価の結果をもとに、外部評価委員会による外部評価を実施して客観的検証を行い、内部質保証システムの更なる強化を図り、大学の改善につなげている。
- 一方で、内部質保証システムの構築とその機能化には、未だ課題を抱える大学が存在しているという現状が明らかとなっている。
 - ・ 自己点検・評価に関わる組織は構築されているものの、明らかになった課題に対応する組織が構築されておらず、どのように改善を図っていくのかが不明確である。
 - ・ 各部局で検証された事項を大学全体で把握し、改善に結びつけるための内部質保証システムが構築されていない。

15

今後の方向性



第3期大学評価の方向性（2018年度～）

1. 改善の観点

- ・ 内部質保証の機能化を前提とした評価の一層の推進
- ・ 取組みの有効性とそのアウトカムに着目した評価の推進
- ・ 大学の多様性に対応した評価の推進
- ・ アカウンタビリティを適切に果たす評価の推進

2. 大学評価の価値を更に高めるための措置

- ・ 評価の国際的通用性を強化
- ・ 社会からの期待に応える評価の実施
- ・ より効率的な評価の実現（負担軽減）

16